

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol.2



発行日：平成 29 年 7 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 40 回山部会WGを開催しました！

6 月 23 日(金)に第 40 回山部会WGが豊田市足助地区にて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域森づくりガイドライン、矢作川流域木づかいガイドラインに関して、現時点の活動状況と今後の予定について情報共有と意見交換を行いました。



日時：平成 29 年 6 月 23 日(金) 14:00~17:30
場所：豊田森林組合庁舎 第 2・3 会議室 参加者：21 名(事務局含む)

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集は、平成 27 年度までの 3 ヶ年に矢作川流域市町村から山村漁村の振興に貢献する 64 団体への取材を行い、とりまとめたものです。昨年度は、“山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト”として平成 25 年度に取材を行った団体に対して再取材を行い、新たな深化を確認しました。4 月の事例集交流会では、担い手による報告と活発な意見交換ができました。今年度は、5 月の WG を受けて、新しい団体に対する取材をメインとして、再取材を交えることにしたいと考えています。また、流域連携を視野に、川に関する担い手にも注目したいと思います。現在、次月の川部会に対して、事例集作成のお誘いを提案しています。



2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、引き続き、以下の 2 項目を進めていきます。

(1) 矢作川感謝祭(9月2日実施予定)

川主体のお祭りに山が加わることになり、今年は木づかい推進(根羽村森林組合)を行います。

(2) 「矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査」～矢作川流域林業担い手 100 人ヒヤリング～

【調査目的】林業への新規参入者の定着後離職の原因究明と対策策定のため
【調査対象】林業事業体および林業事業体就業後 4 年以上 55 歳未満の技能員
【調査期間】2017 年 7 月～2019 年 3 月 【調査手法】対面聞き取り調査
【調査結果の活用】①報告書刊行、「森の健康診断」ポータルサイトに掲示
②結果報告・交流会の開催(2019 年 3 月)



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の 3 項目について情報共有します。

(1) 流域市村の間伐面積の推移

平成 27 年度以降、根羽・平谷で増加・横ばい、恵那では減少していました。

(2) 大阪府の森林環境税を使った取組み(小学生配布用のチラシ)

森林環境税の使い道(事例)について、大阪府の状況を知りました。

(3) 豊田市の森づくり構想の見直しについて(豊田市産業部森林課 鈴木春彦様)

見直しのポイントとして、以下の 5 つを重点事項としています。このうち①、②、③について、詳細にご説明いただきました。

- ①保全に関するルールの設定
- ②地域材利用の活性化
- ③人材の確保・活用
- ④森林の整備目標の数値等の検討
- ⑤市内森林のゾーニング



4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、以下の 5 項目について情報共有します。

- (1) 国際ウッドフェアへの参加
- (2) 根羽スギセレクション(カタログ)完成報告
- (3) 根羽スギにおける森林認証(SGEC)と木材流通認証(COC)の取得
- (4) 木を使った市民参加型のプレイスメイキング(ブックボックスの活用)
- (5) 安城市図書館(アンフォーレ)オープニングフェスへの出展



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ 目的は2つあって、山村の取材先の話と川部会との連携の話だ。事例集が2種類できるということか。(蔵治)
 - ▶ 1種類で良いと思う。川の取材先が増えるようであれば、流域再生を謳うのも可能だと思う。(丹羽)
- ・ 音楽祭などが取材先になるなど、だんだん山村という範疇から離れて拡大しつつある。むしろ、流域再生と言ってしまっても良いのではないか。(蔵治)
 - ▶ 今まで山村がメインで海や川の団体を少し入れる程度であった。そろそろ流域全体に目を向ける時期でもあるので「流域再生担い手づくり事例集」にして、対象範囲を拡大したいと思う。(洲崎)
- ・ 天竜川では、増えてしまった竹林の抑制対策として筏の材料、竹炭、食材などに利用する天竜船下り会社というのがある。矢作川流域の竹林整備にも関係するので、是非取材先にしてはどうか。(今村)
 - ▶ 勉強会にして、川や海からも参加できるようにしてはどうか。(蔵治)

●矢作川流域圏山村ミーティングについて

◀矢作川感謝祭▶

- ・ このイベントの対象は流域なので、岡崎も根羽も関係する。これからも流域にこだわっていききたい。(丹羽)
- ・ 東幡豆漁協に参加して欲しいので、国土交通省から声をかけてもらいたい。(高橋)
 - ▶ 運送手段など物理的な支援を含め、できる限り応えるようにしたい。(服部)

◀矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査▶

- ・ 8月を目途に、流域の4つの事業体(根羽村、恵南、豊田、岡崎の各森林組合)に対して、協力依頼をする。(丹羽)
- ・ 西垣林業、豊田や岡崎の自伐林家や小規模事業体も是非対象にしてほしい。(蔵治)
 - ▶ 大規模な事業体の調査を終えた後、規模の小さな企業体や個人に目を向けたいと思う。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

◀矢作川流域市村の間伐面積の推移▶

- ・ 恵那市においては、搬出間伐メインになり間伐面積の減少がみられた。また、根羽村においては、間伐適期を過ぎた林分が増加し、今後は間伐面積が減少するものと見込まれている。(石原)
 - ▶ 今後は主伐面積の合計もデータに加える必要があるかもしれない。(蔵治)

◀豊田市の森づくり構想の見直しについて▶

- ・ 来年から豊田市において中核製材工場が稼働する。初年度は25,000立米、5年後には45,000立米の原木処理を見込んでいる。また、その半分以上を豊田市産材で賄いたいと考えている。(鈴木)
- ・ 地域材に関して、森林認証を取得する方針はあるか。(坂坂)
 - ▶ 調査研究の一環として、市有林の一部に対しSGECという日本の認証を取得しようとしている。(鈴木)
- ・ 林業の集約化や機械の大型化を進めることは、山主の山離れを一層加速させないか。我々は、山主の山離れを阻止するために、木の駅プロジェクトや森の健康診断を進めてきた。(丹羽)
 - ▶ 森林組合と地域と市の3者でその土地の歴史や課題を議論する森づくり会議を設置している。(鈴木)
- ・ もちろん木材生産量の増加は重要であるが、地域住民が何を望んでいるかという視点も大切にしたい。(蔵治)
- ・ 森林の適切な管理のためには、流域住民の意識改革が不可欠であり、行政にはその説明責任を果たしてほしい。(林)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・ 組手什(くでじゅう)を東京の量販店で販売して7年になるが、今では1本1,000円にも関わらず、月に1万本が飛ぶように売れている。下手な合板より安いことと、気づかいの価値が消費者に浸透してきたと感じる。(丹羽)
- ・ 8月19-20日に予定される安城市の図書館のオープニングフェスでは、通常の木づかいに加えて、夜は根羽の食材をふんだんに使ったバーベキューで大いに盛り上がり、木づかい推進の集大成にしたい。(今村)
 - ▶ ちょうど山部会WGのない月なので、流域圏懇談会の自主勉強会にしてはどうか。(蔵治)

★振り返り

- よかったと思うこと:** 山部会が活気に満ちていること。/岡崎市環境部や林務課の参加が嬉しかった。/豊田市の森づくり計画が細かく設定されていたこと。/根羽村の木づかいの動きが確認できたこと。木づかいの資料がよかった。
- よくなかったと思うこと:** 豊田市の森づくり計画に水のコントロール、景観の視点などが不足しているように思った。
- 今後、取り組んでいきたい活動など:** 森の健康診断を振り返り、行政が動くことは画期的なことなので、今後もしっかり実行してほしい。/岡崎市で取り組むための主体性の確保。

今後のスケジュール (予定)

次回の山部会WGは、7月28日(金)~29日(土)根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

